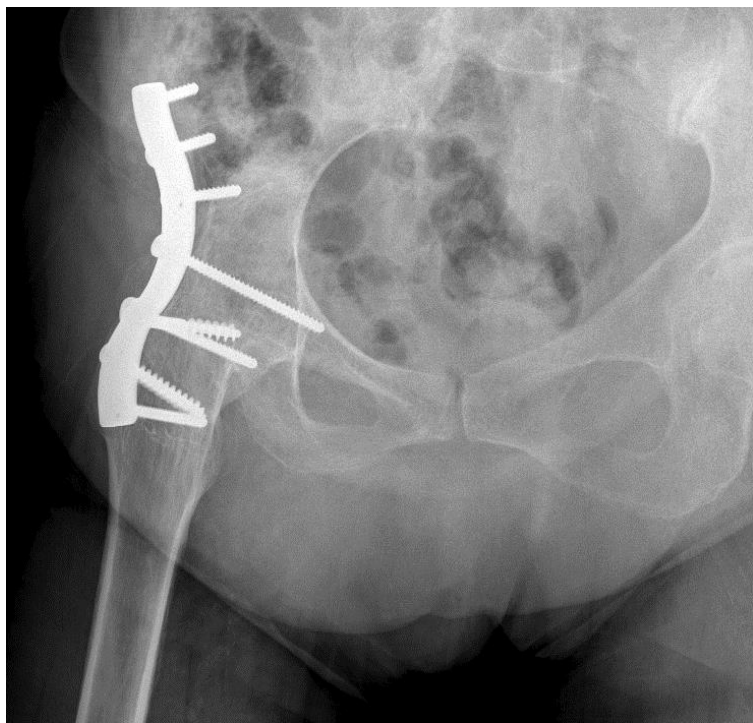


股関節固定術後状態に対する 人工股関節置換術の経験



◆金沢大学整形外科

加畑多文
楫野良知
山本崇史
土屋弘行

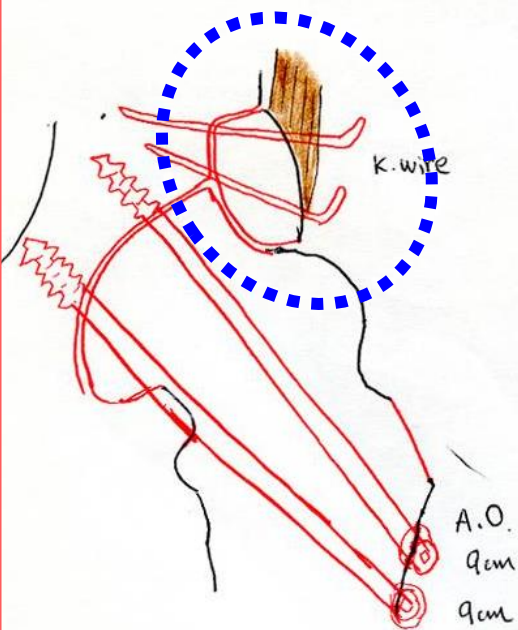
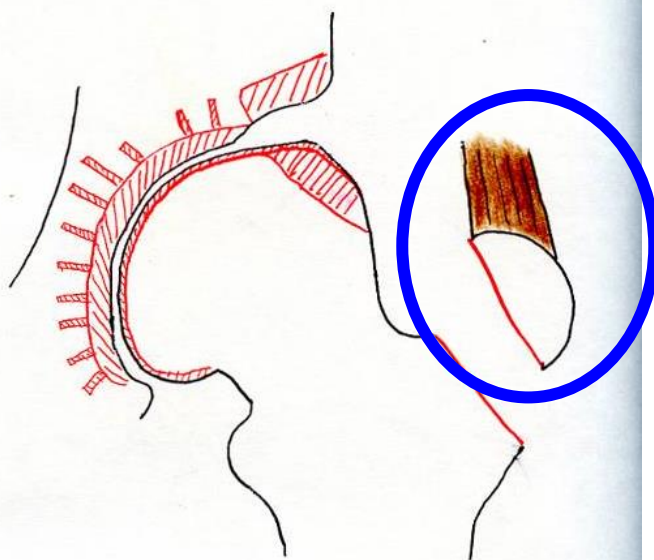
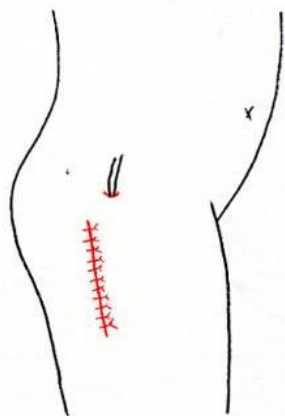
前田 亨
井上大輔
高木知治



Fused hipに対するTHAの問題点

- ✓ 殿筋が著しく廃用性に萎縮している
- ✓ 良肢位での固定の場合、疼痛に対する愁訴がない
- ✓ 内固定材料が残っていることがある
- ✓ 大転子が切離されて固定に用いられている場合がある





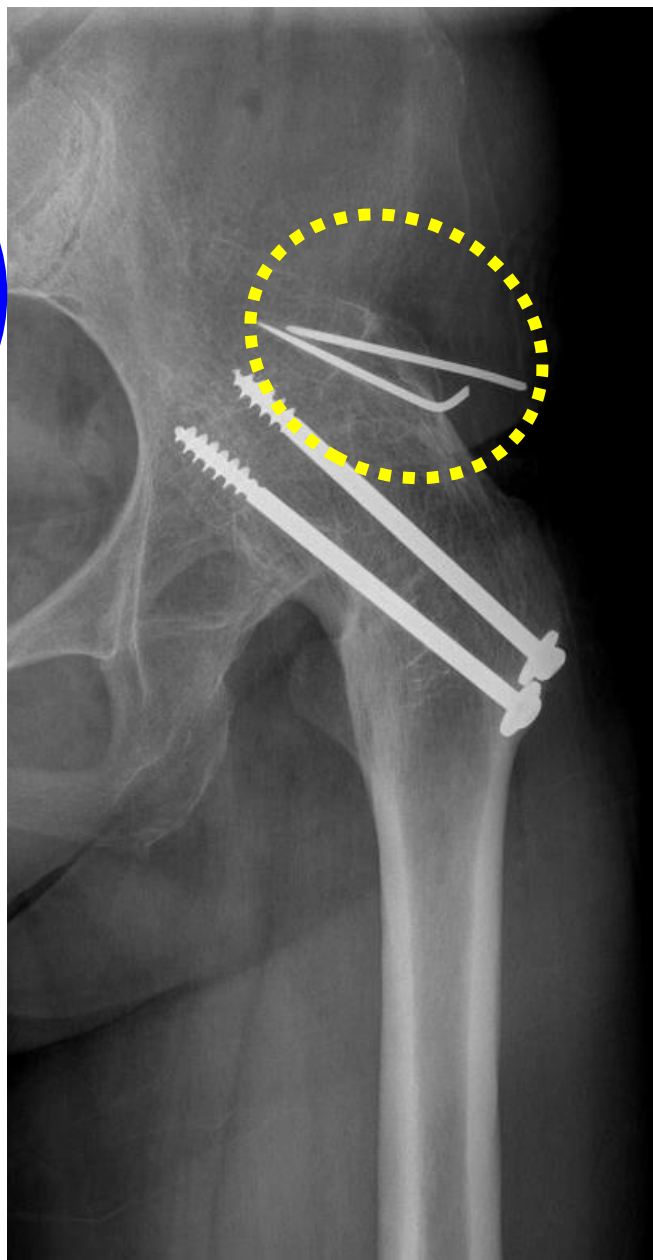
① 大転子の離し脱臼は、臼蓋は、リーマ、1ミ、
エヒにて、関節面を切除しにが、硬く、海綿状骨
はあらわすから。臼蓋部に $\phi 4\text{mm}$ の穴に
20数個の穴をあけ、骨の全と固定を試みる。

② 骨頭は、エヒにて骨の海綿状骨の出現を試みる。

③ A.O. ~~canseous~~ screw, 9cm 2本にて
A.B.D., A.D.D. 0° . Flexion. 20° にて固定。

④ 大転子は、図のとおり、骨頭と臼蓋に、
つじ、K. wire. にて固定し、
1ミに

port. vac, gips fixation,



Fused hipに対するTHAの問題点

- ✓ 殿筋が著しく廃用性に萎縮している
- ✓ 良肢位での固定の場合、疼痛に対する愁訴がない
- ✓ 内固定材料が残っていることがある
- ✓ 大転子が切離されて固定に用いられている場合がある
- ✓ 手技が難しい



目的



当科における股関節固定術後状態に対する人工股関節置換術（**THA**）の経験を報告し、その臨床効果と問題点につき検討する。



症例と方法



Patients

過去に股関節固定術を施行され、その後何らかの臨床症状のため**THA**への**conversion**を行なわれた症例のうち、術後**9**か月以上を経過し、直接の観察が可能であった**8例8関節**

- 性別 : 男性**2**例、女性**6**例
- 手術時年齢 : 平均**58**歳 (42-68)
- 経過観察期間 : 平均**4**年**5**ヶ月 (**9M-11Y**)



Patients

■ 術前症状

- ✓ 疼痛（偽関節）
- ✓ 跛行
- ✓ **Malunion**
- ✓ 脚長差
- ✓ その他（座りやすくなりたいなどの希望）



Patients

■ 関節の固定状態

- ✓ **complete arthrodesis** : 6例
- ✓ **failed arthrodesis** : 2例

■ 固定様式

■ 固定期間



**complete
arthrodesis : 6例**

**failed
Arthrodesis : 2例**



Patients

■ 関節の固定状態

- ✓ **complete arthrodesis** : **6例**
- ✓ **failed arthrodesis** : **2例**

■ 固定様式

- ✓ 大転子移行あり : **6例**
- ✓ 大転子移行なし : **1例**
- ✓ 不明 : **1例**

■ 固定期間

- ✓ 平均**30年** (20-47)



Surgical approach

■ 大転子移行なしの症例

- ✓ 通常の後方アプローチ：1例

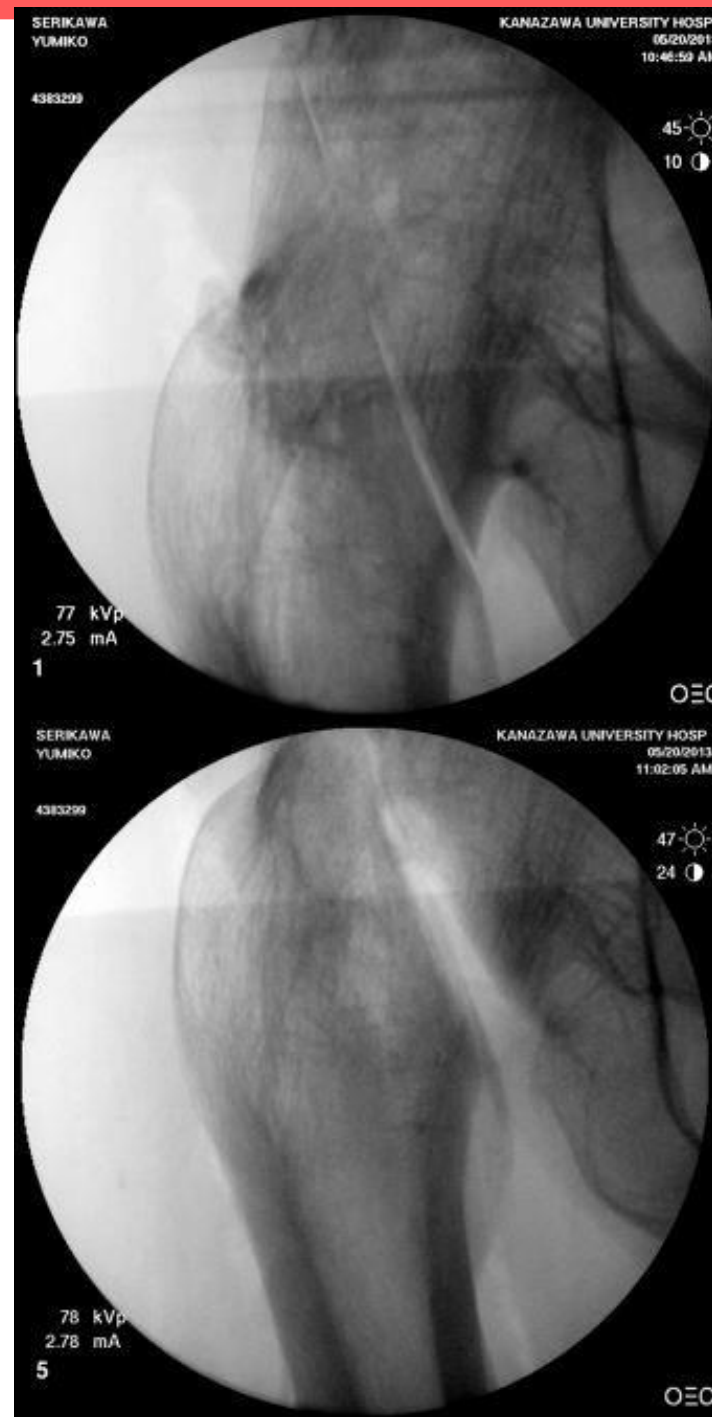
■ 大転子移行あり or 不明

- ✓ 前後2皮切：2例
- ✓ Y皮切：5例



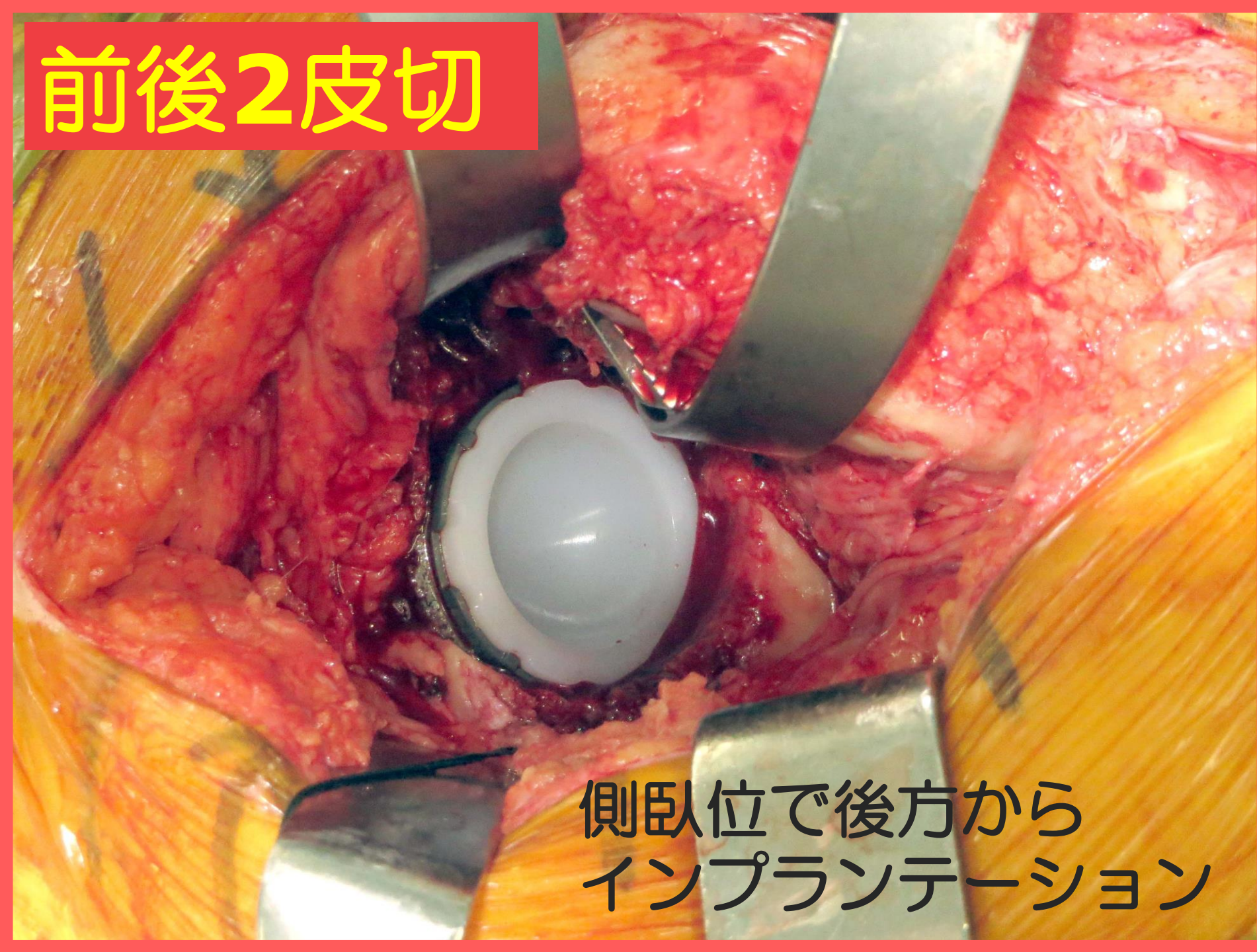
前後2皮切

仰臥位で前方から頸部
を骨切りして分断



前後2皮切

側臥位で後方から
インプランテーション



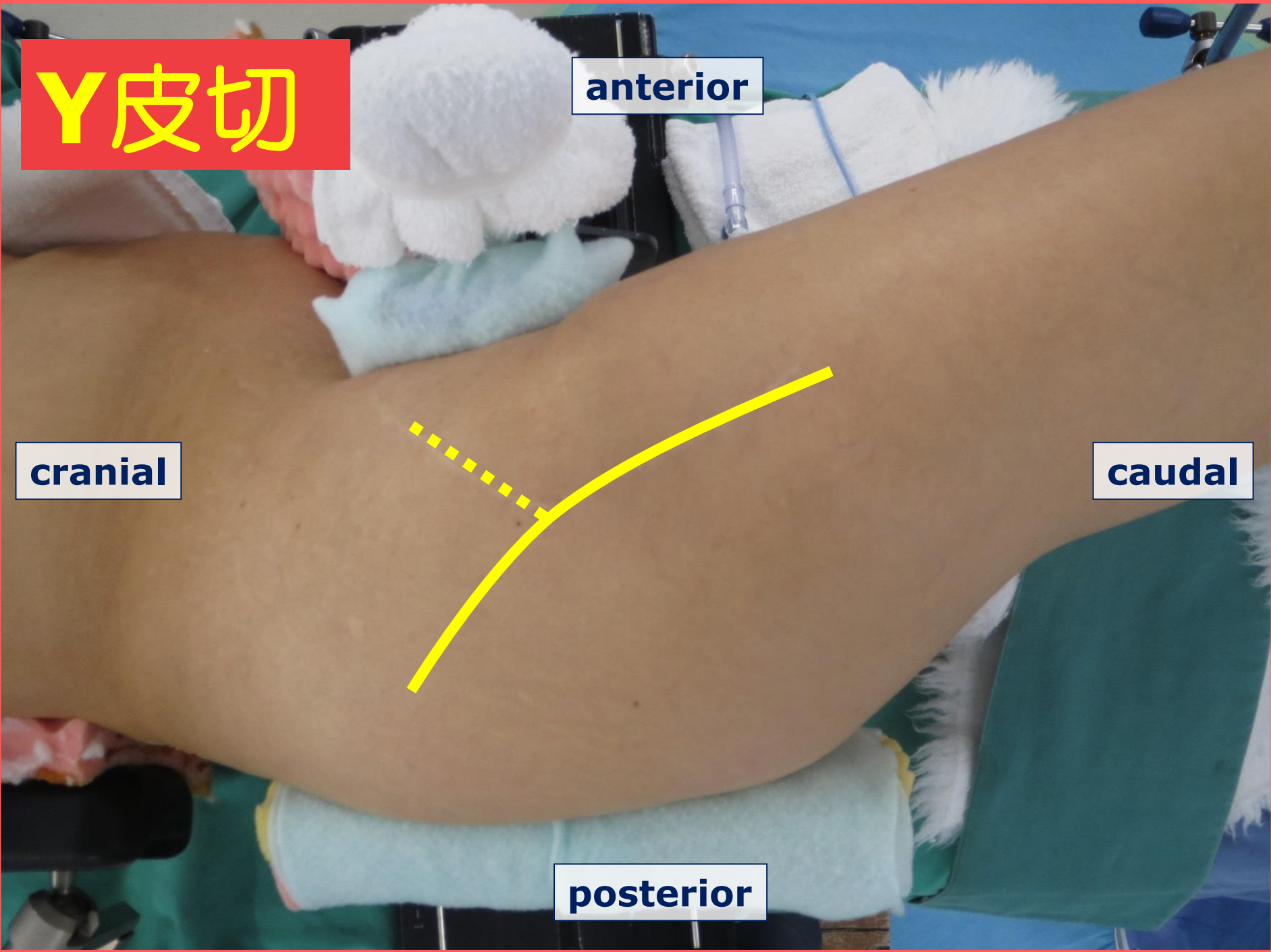
Y皮切

anterior

cranial

caudal

posterior



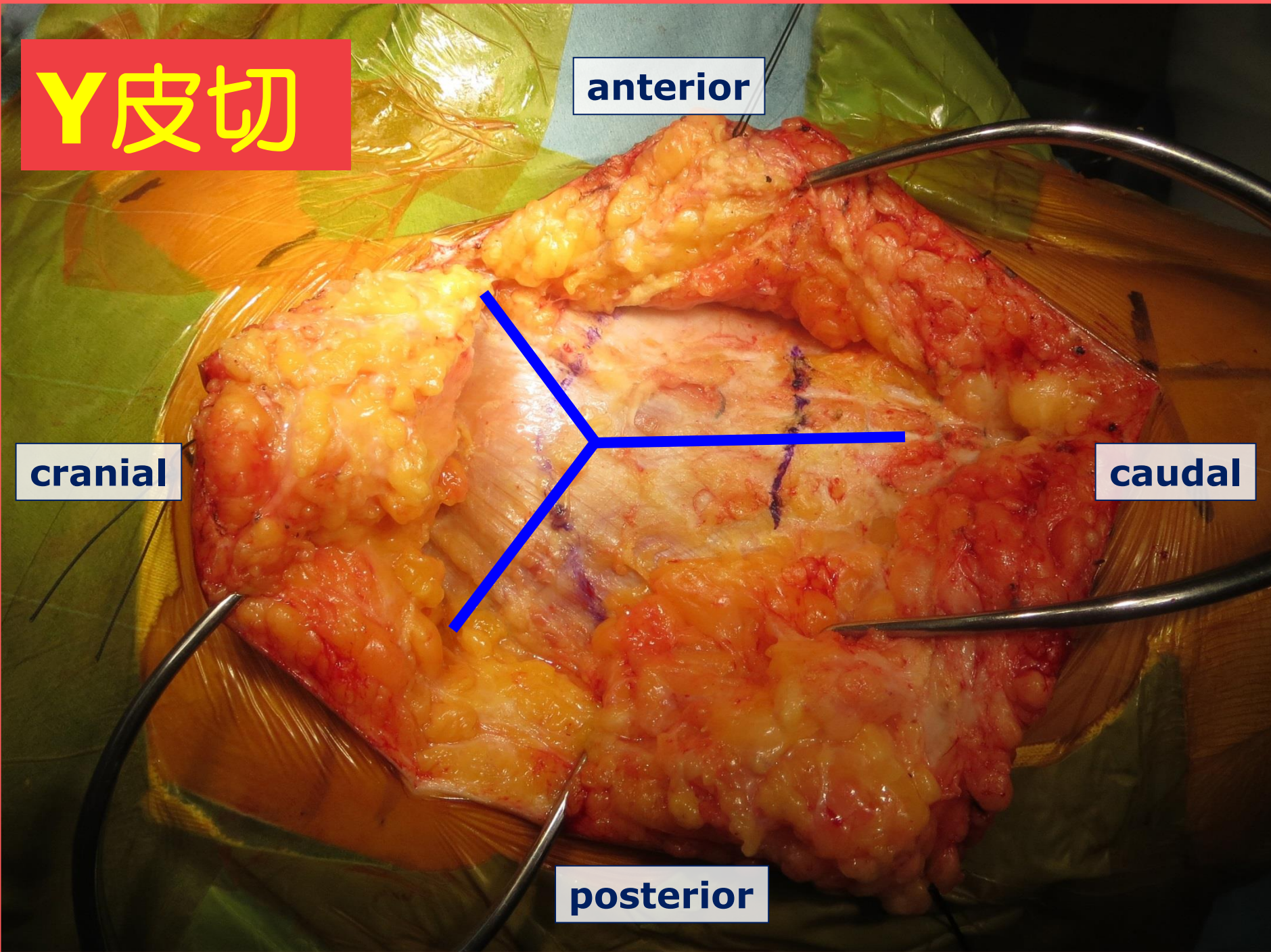
Y皮切

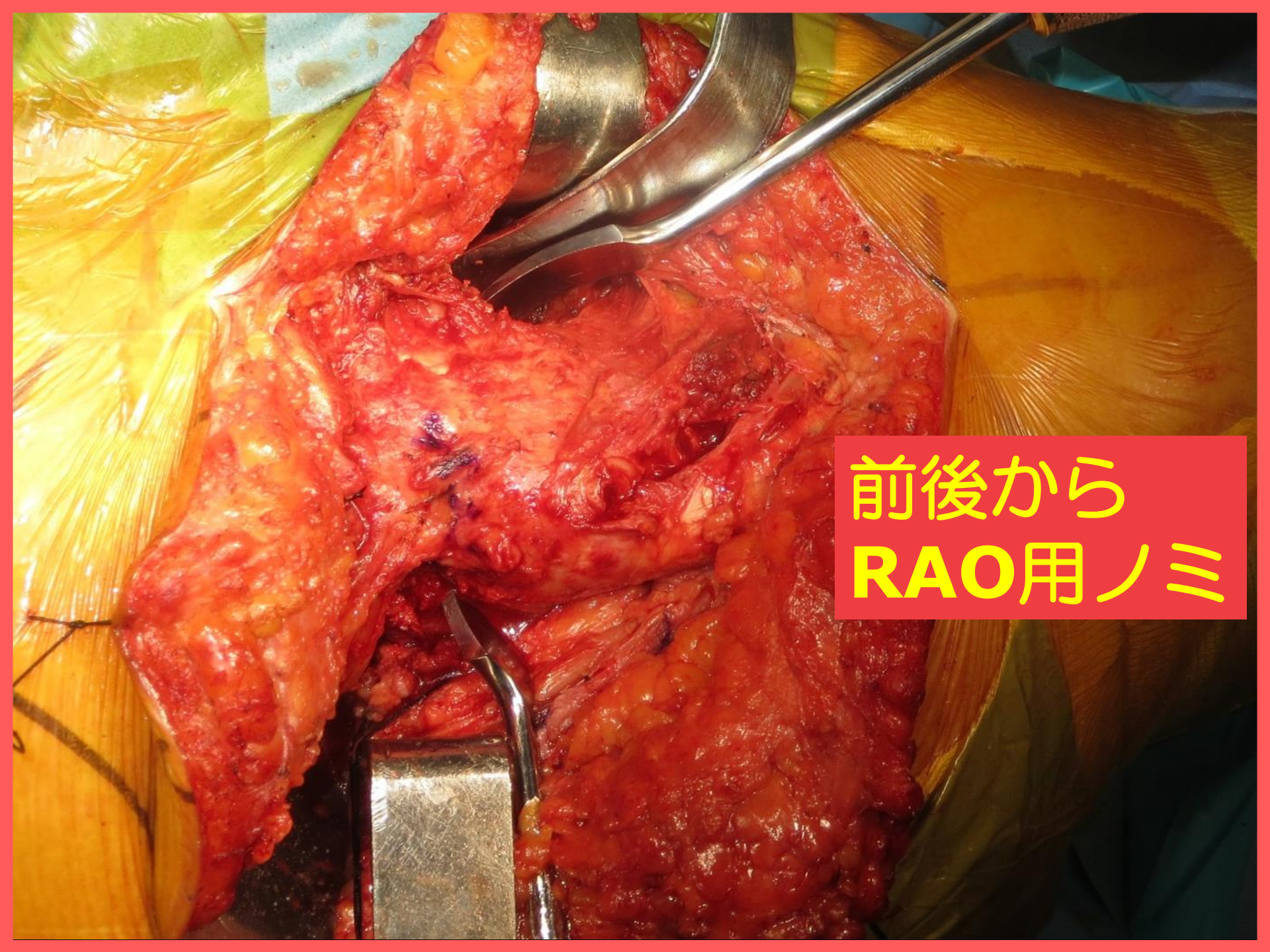
anterior

cranial

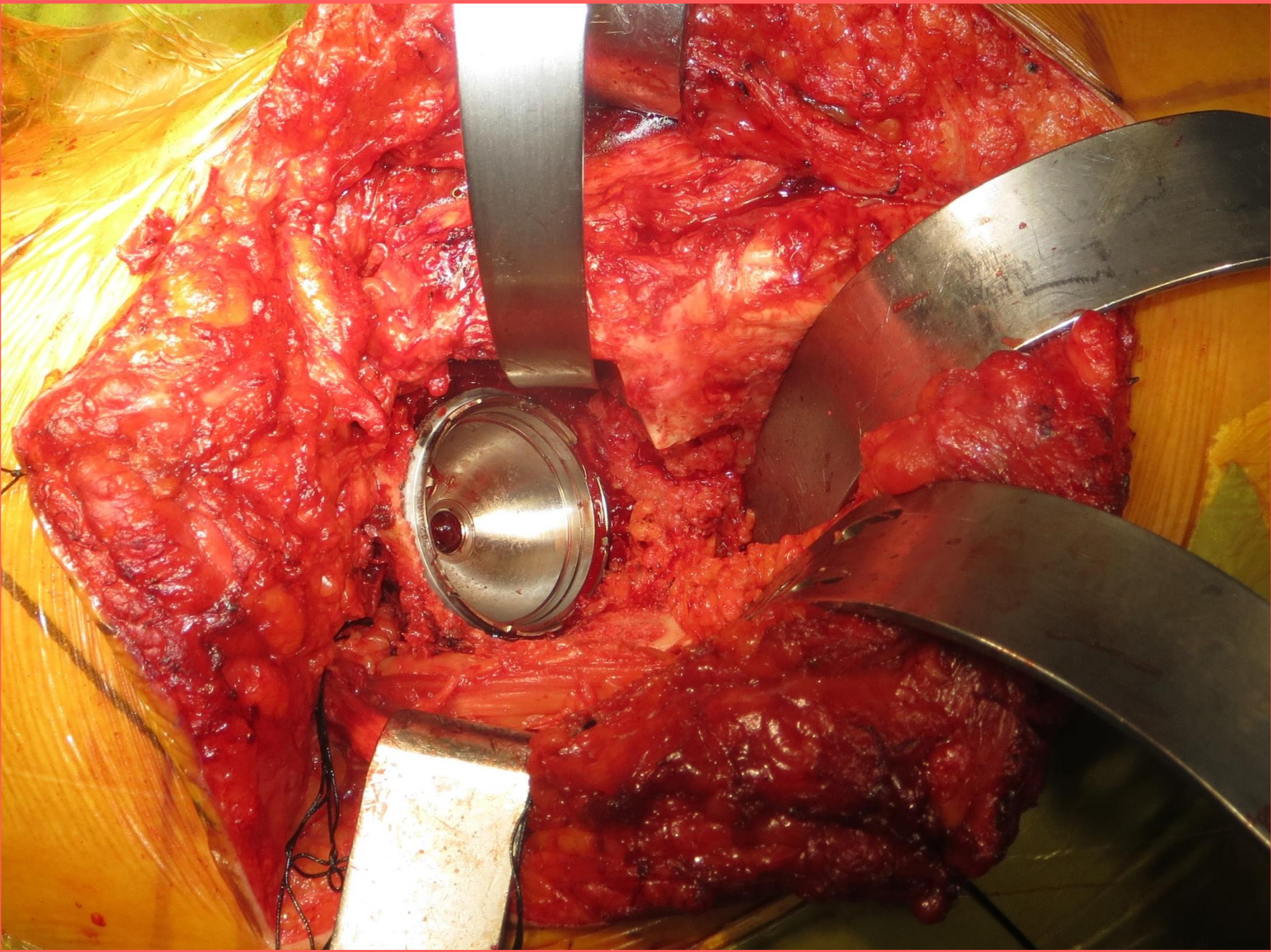
caudal

posterior



An intraoperative photograph showing a surgical site with exposed muscle and soft tissue. Several surgical instruments, including forceps and a retractor, are visible. A red rectangular text box is overlaid on the right side of the image.

前後から
RAO用ノミ



Evaluation

- JOA hip score
- 臀筋の手術所見
- 歩行能力
- 満足度

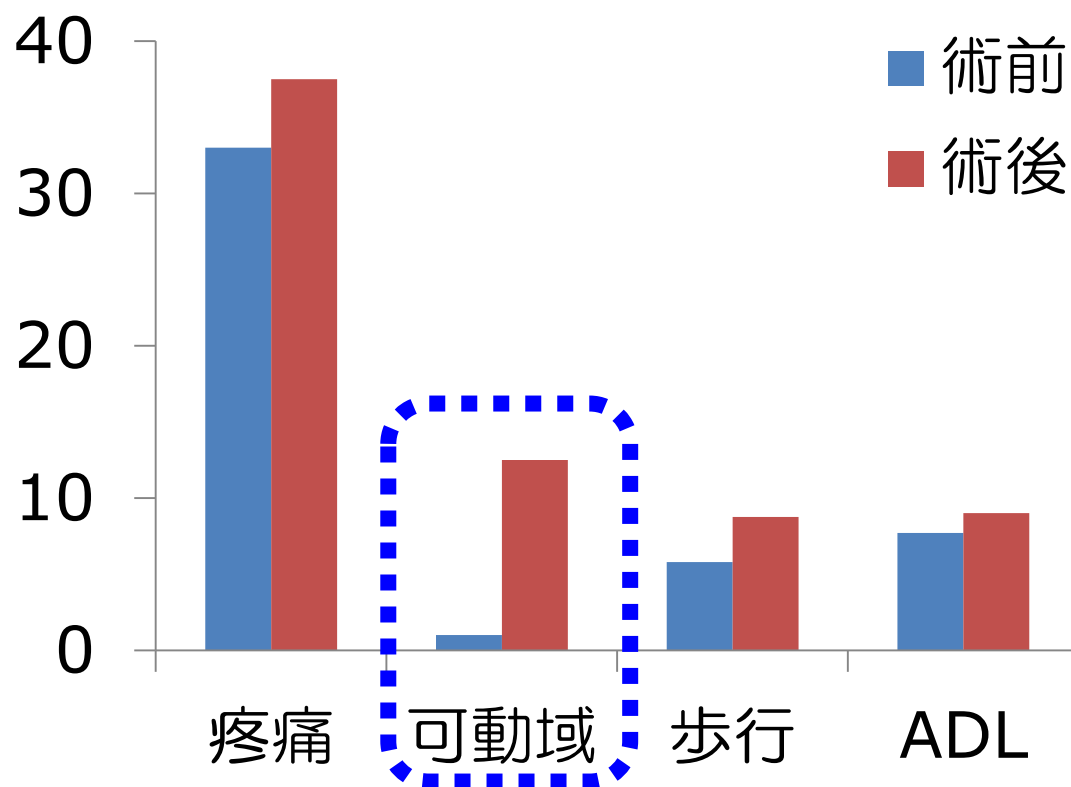


結果



JOA score

■ 術前49.4点 ⇒ 術後77.3点



術中の外転筋の状態

■ 中臀筋

- 良好 : **1**例
- 線維状 : **2**例
- まずまず : **1**例
- 一部不良 : **3**例
- 不良 : **1**例

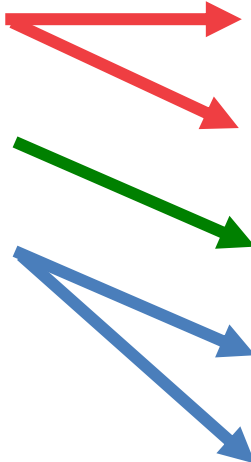
■ 大腿筋膜張筋

- 全例温存



歩行能力

■ 中臀筋

- | | | | | |
|-------|------|--|--------|------|
| • 良好 | : 3例 |  | • 良好 | : 1例 |
| • 杖なし | : 1例 | | • 線維状 | : 2例 |
| • 杖必要 | : 4例 | | • まずまず | : 1例 |
| | | | • 一部不良 | : 3例 |
| | | | • 不良 | : 1例 |



満足度

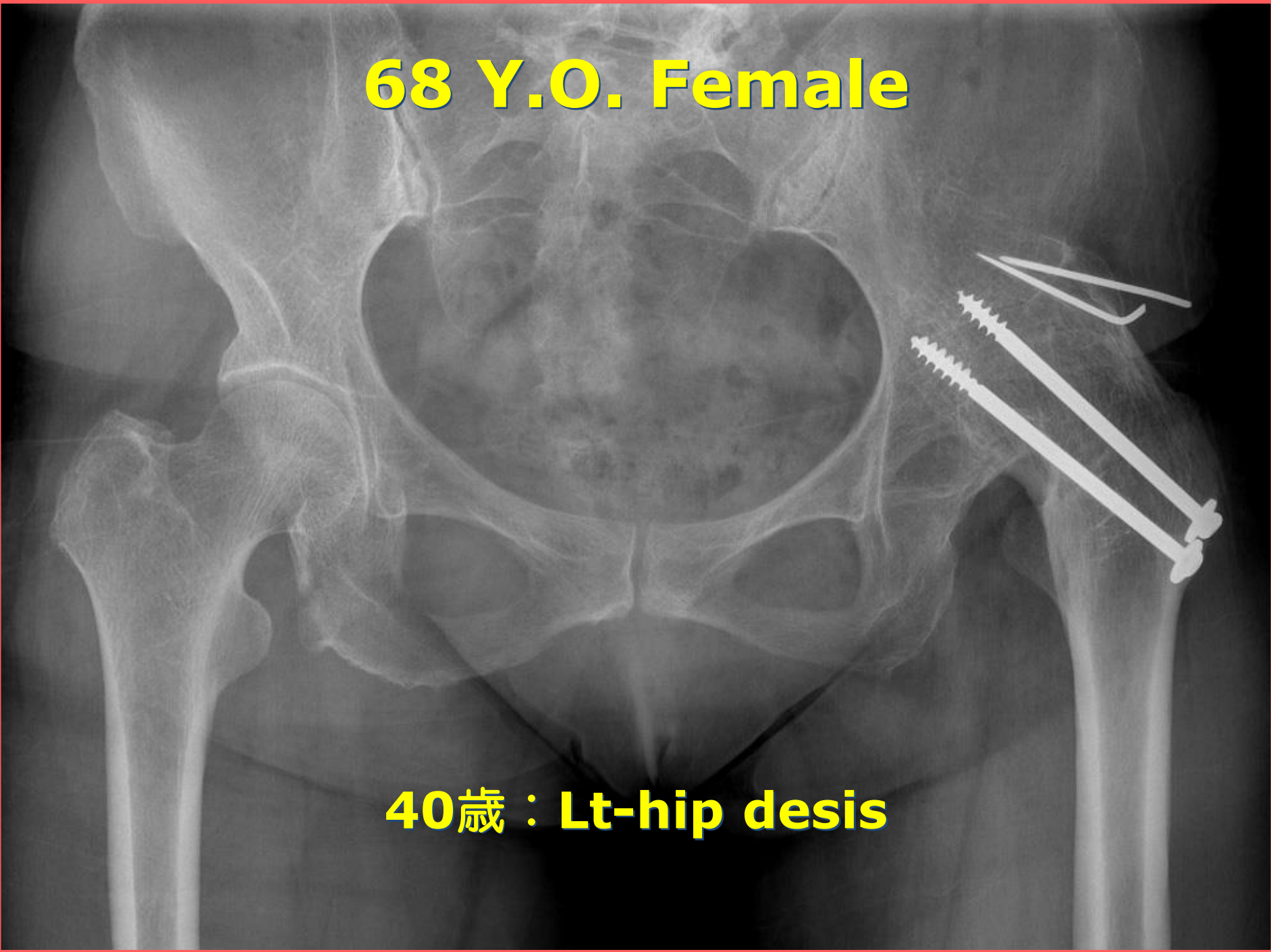
症例	癒合	術後期間	外転筋	歩容	満足度
1	偽関節	11Y	良好	良好	◎
2	偽関節	9Y	線維状	良好	◎
3	fusion	6Y4M	線維状	良好	◎
4	fusion	3Y	不良	杖必要	△
5	fusion	2Y4M	一部不良	杖必要	△
6	fusion	2Y2M	一部不良	杖必要	×
7	fusion	1Y3M	まずまず	杖なし	○
8	fusion	9M	一部不良	杖必要	△

症例提示



68 Y.O. Female

40歳：Lt-hip desis



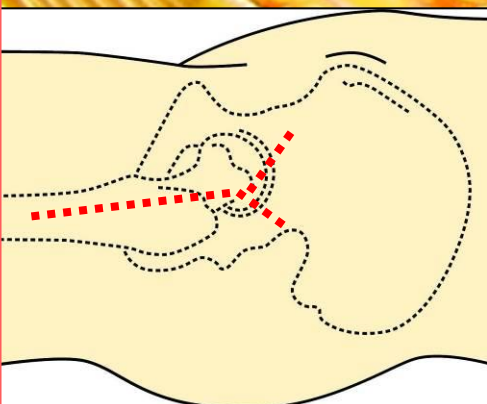
anterior

大転子

caudal

cranial

posterior



anterior

大転子

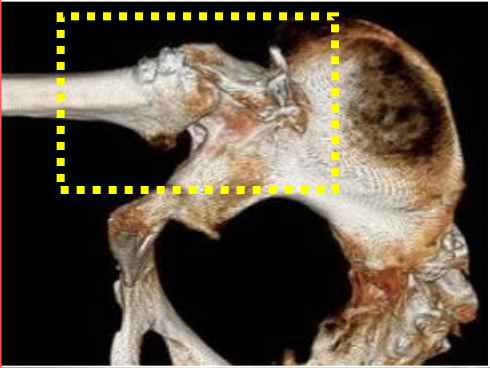
小転子

caudal

cranial

骨頭

posterior

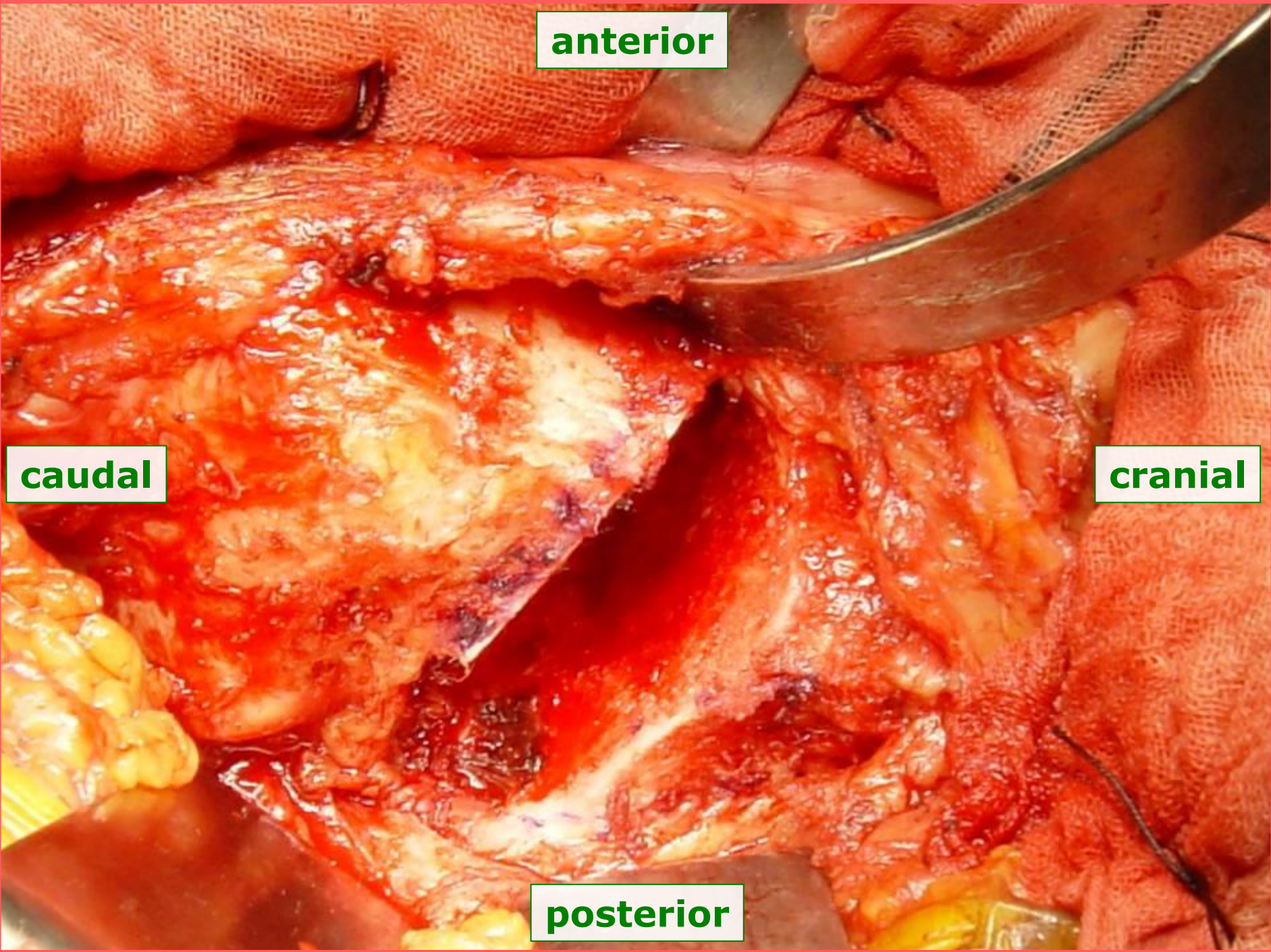


anterior

caudal

cranial

posterior

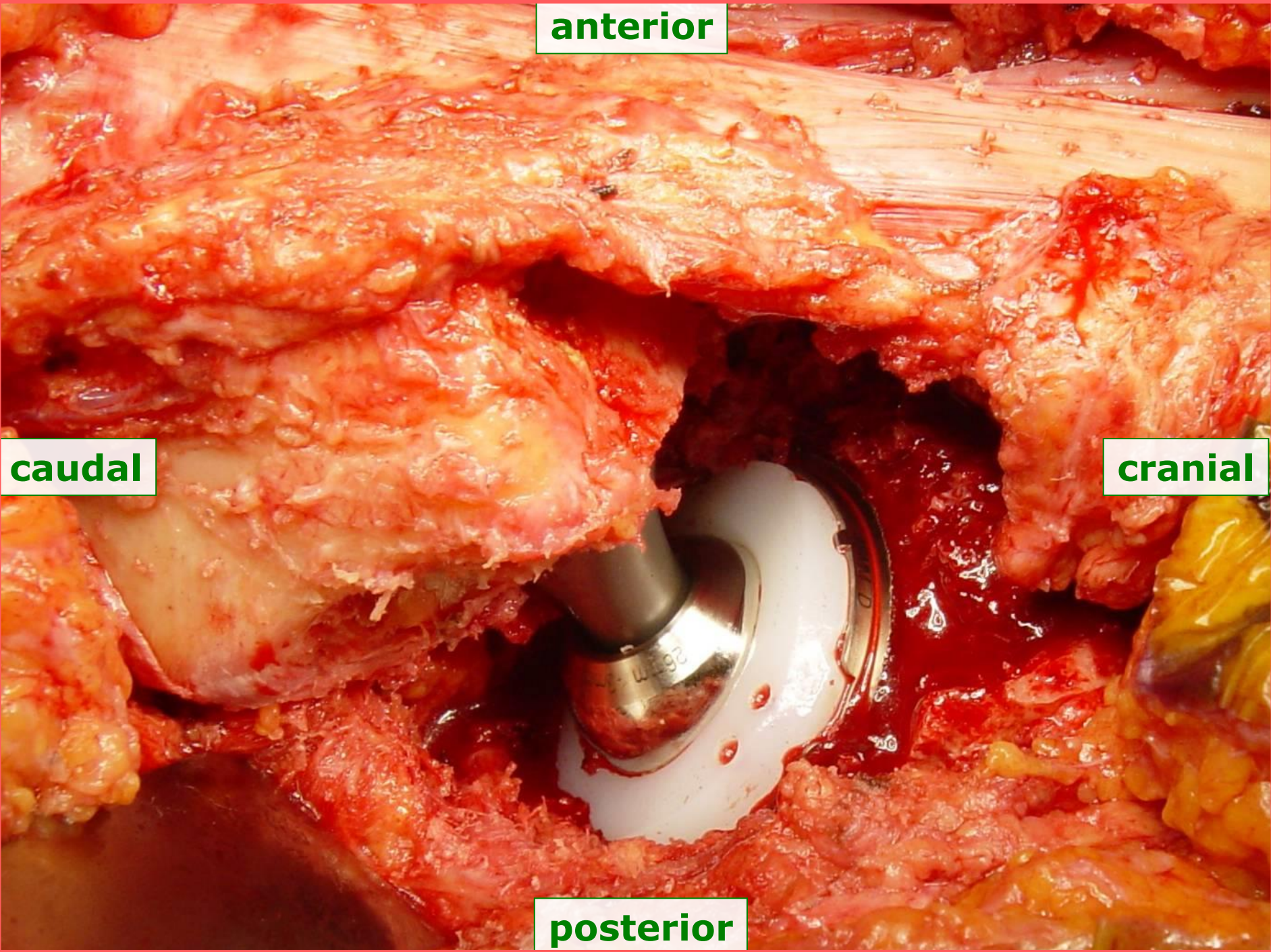


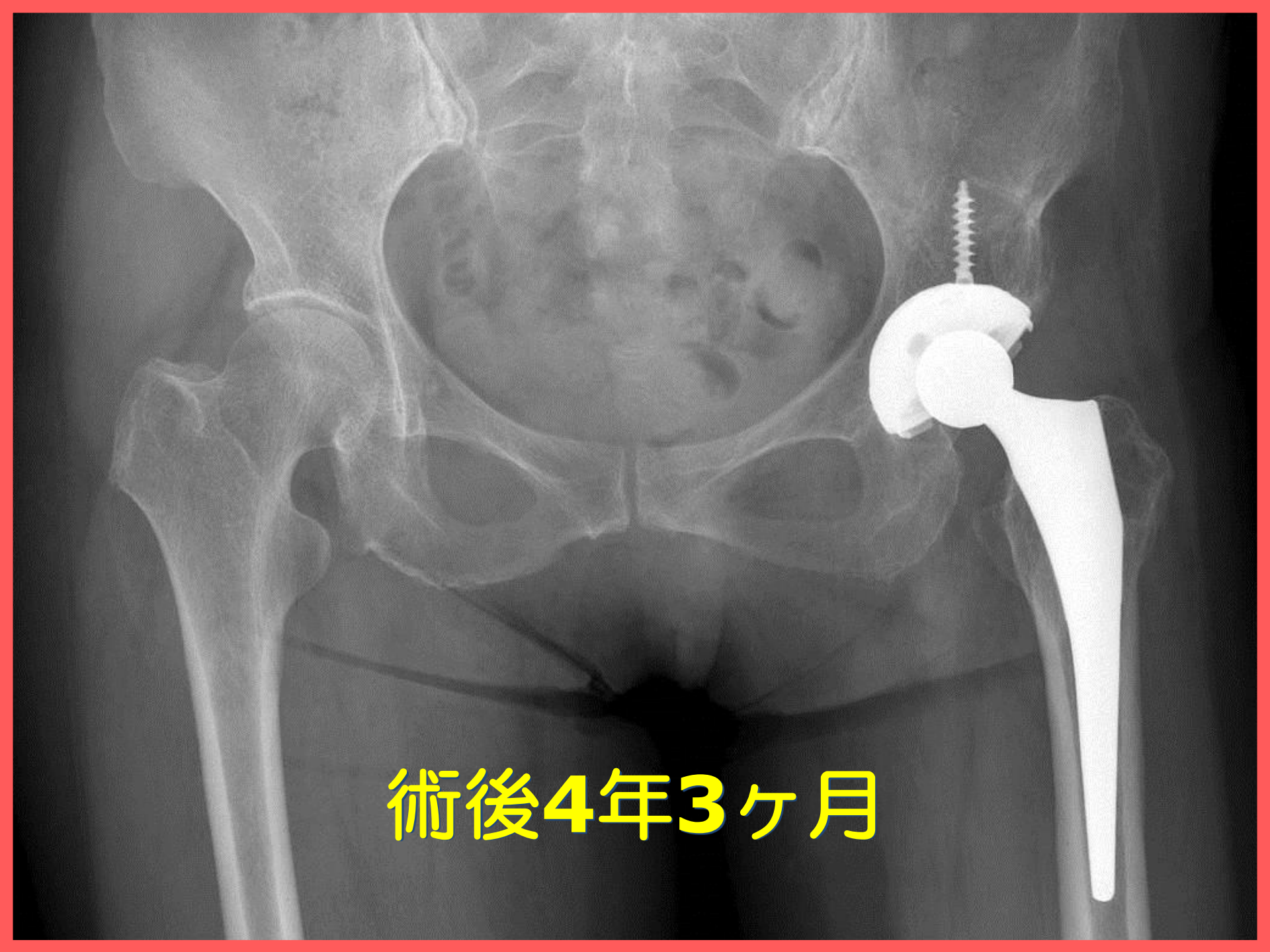
anterior

caudal

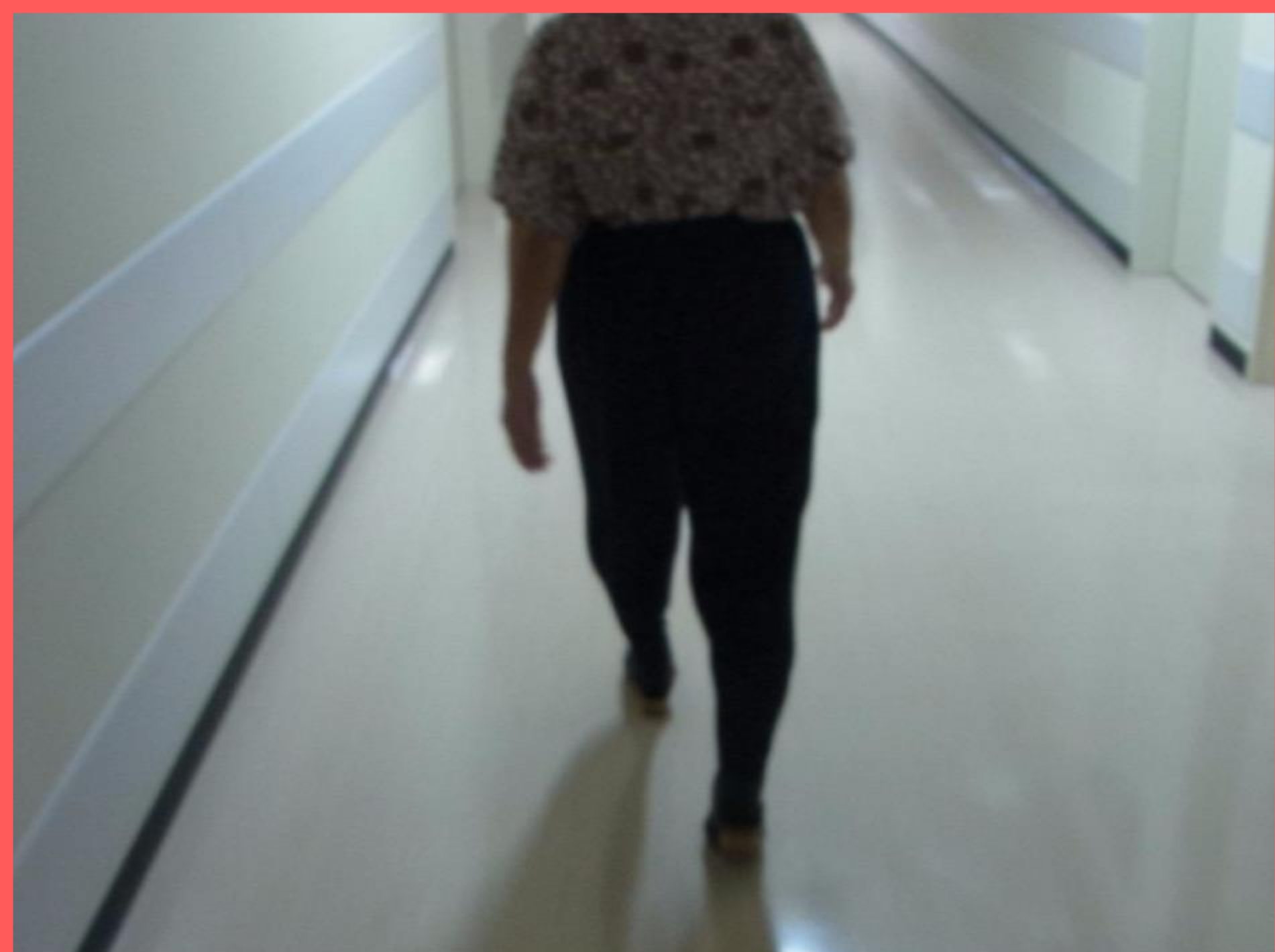
cranial

posterior





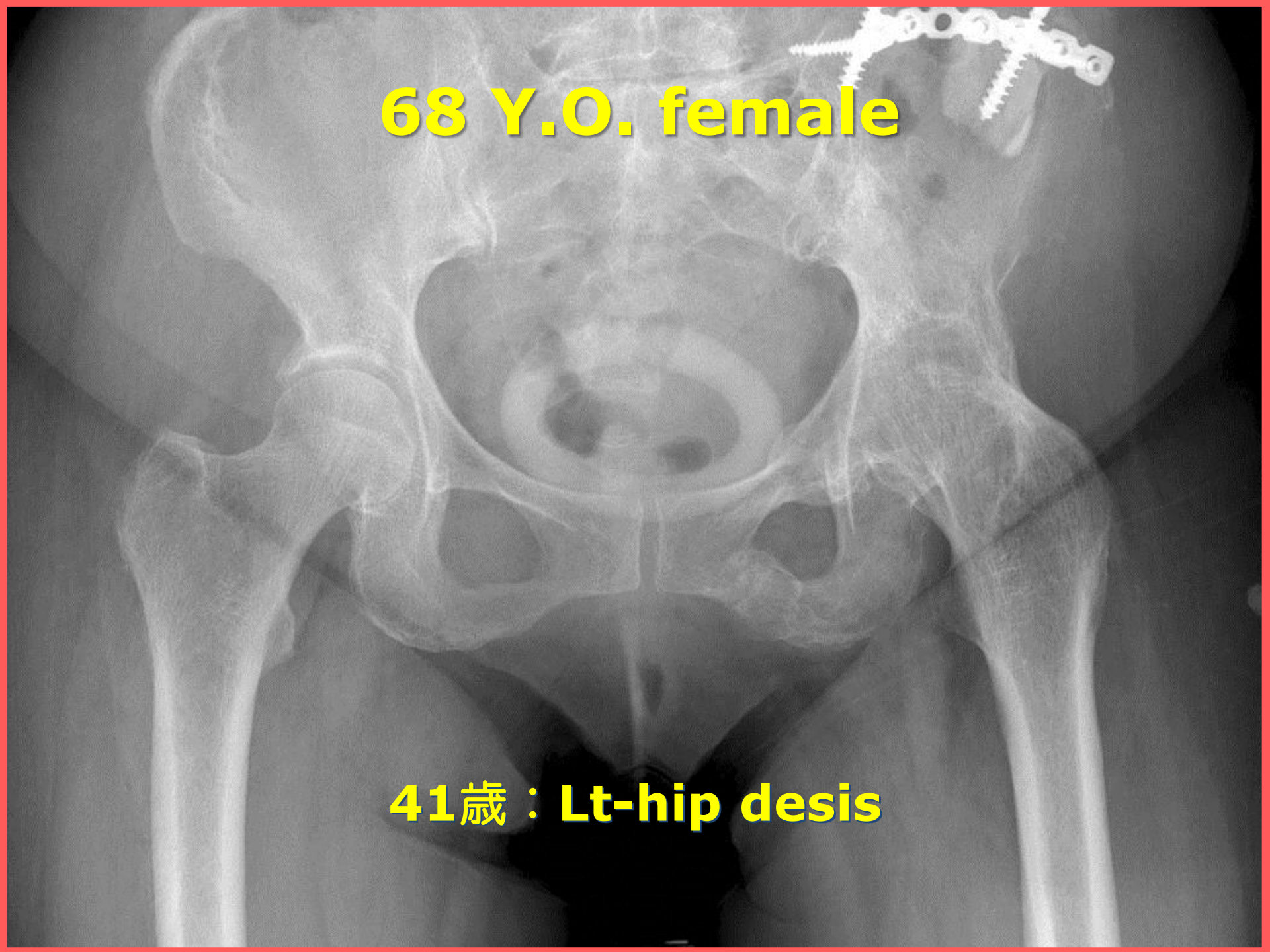
術後4年3ヶ月





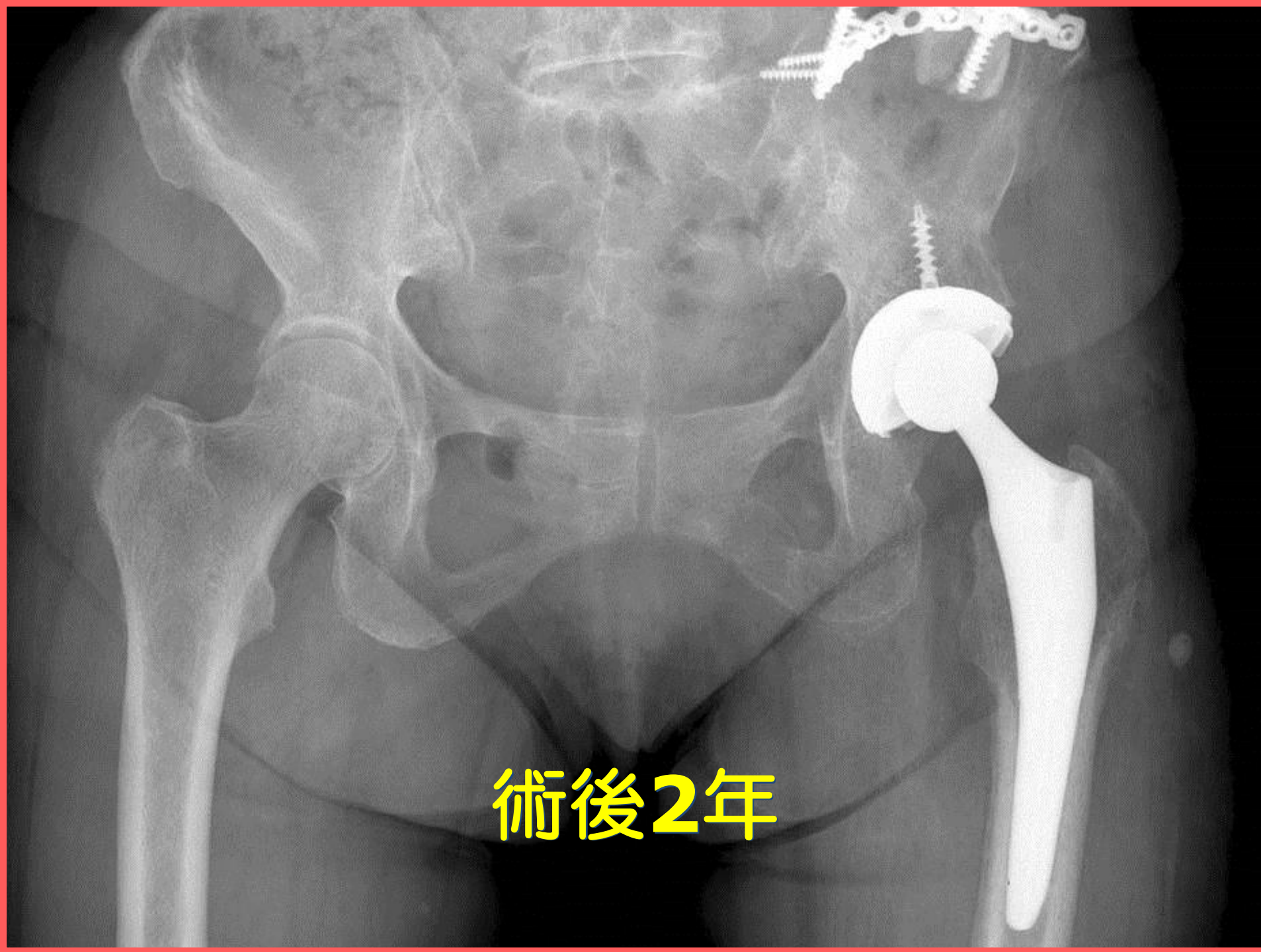




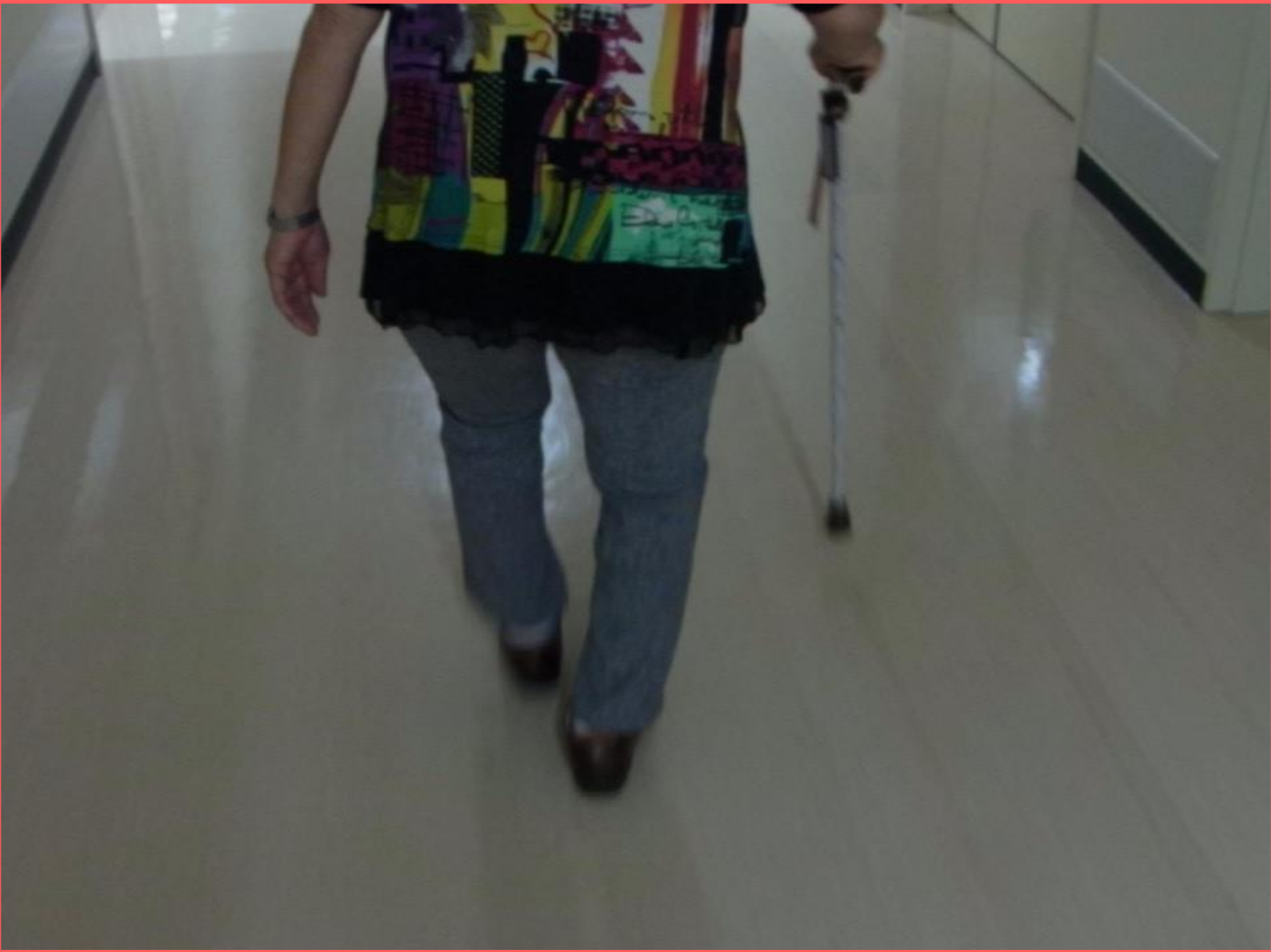


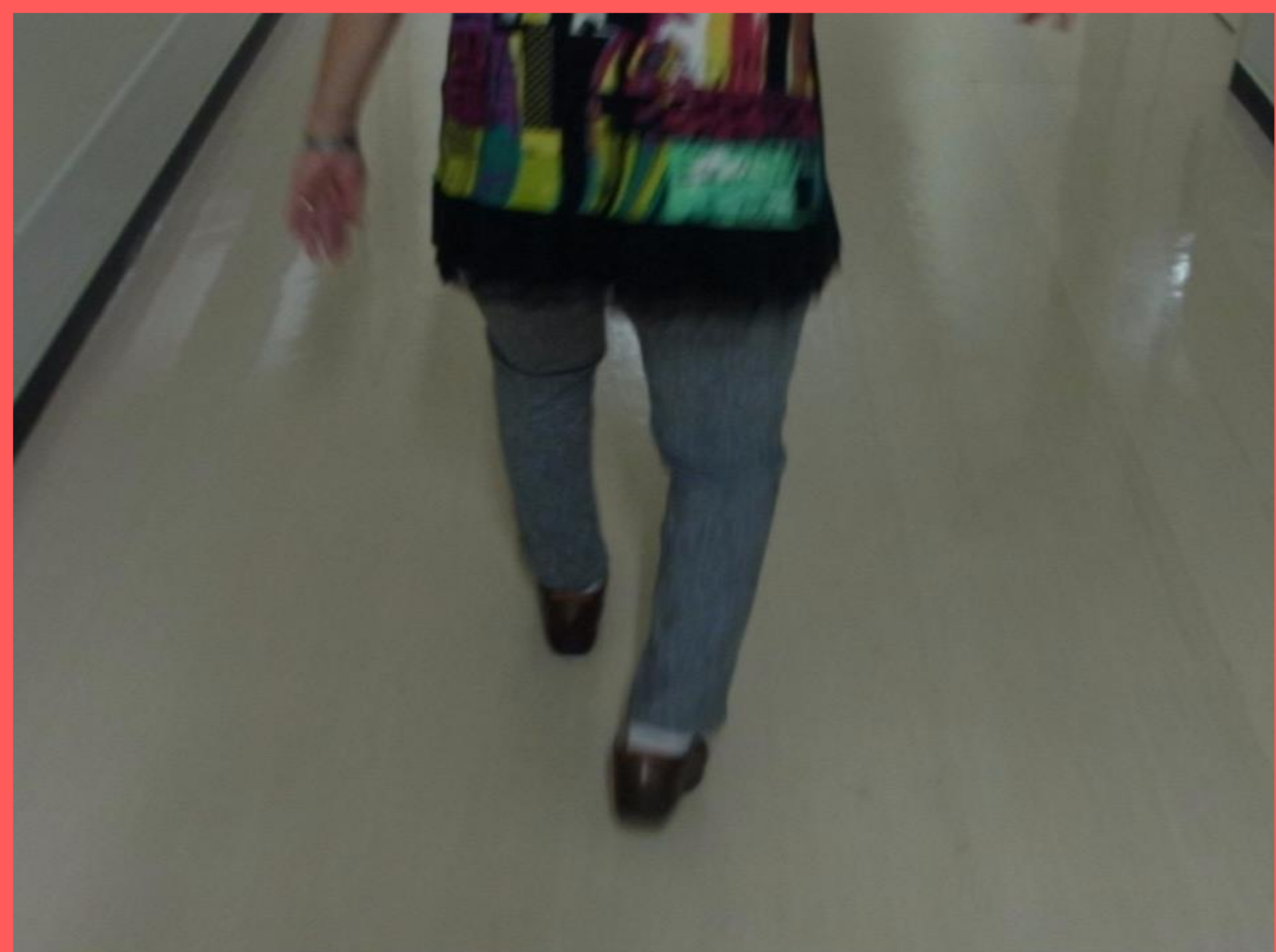
68 Y.O. female

41歳：Lt-hip desis



術後2年

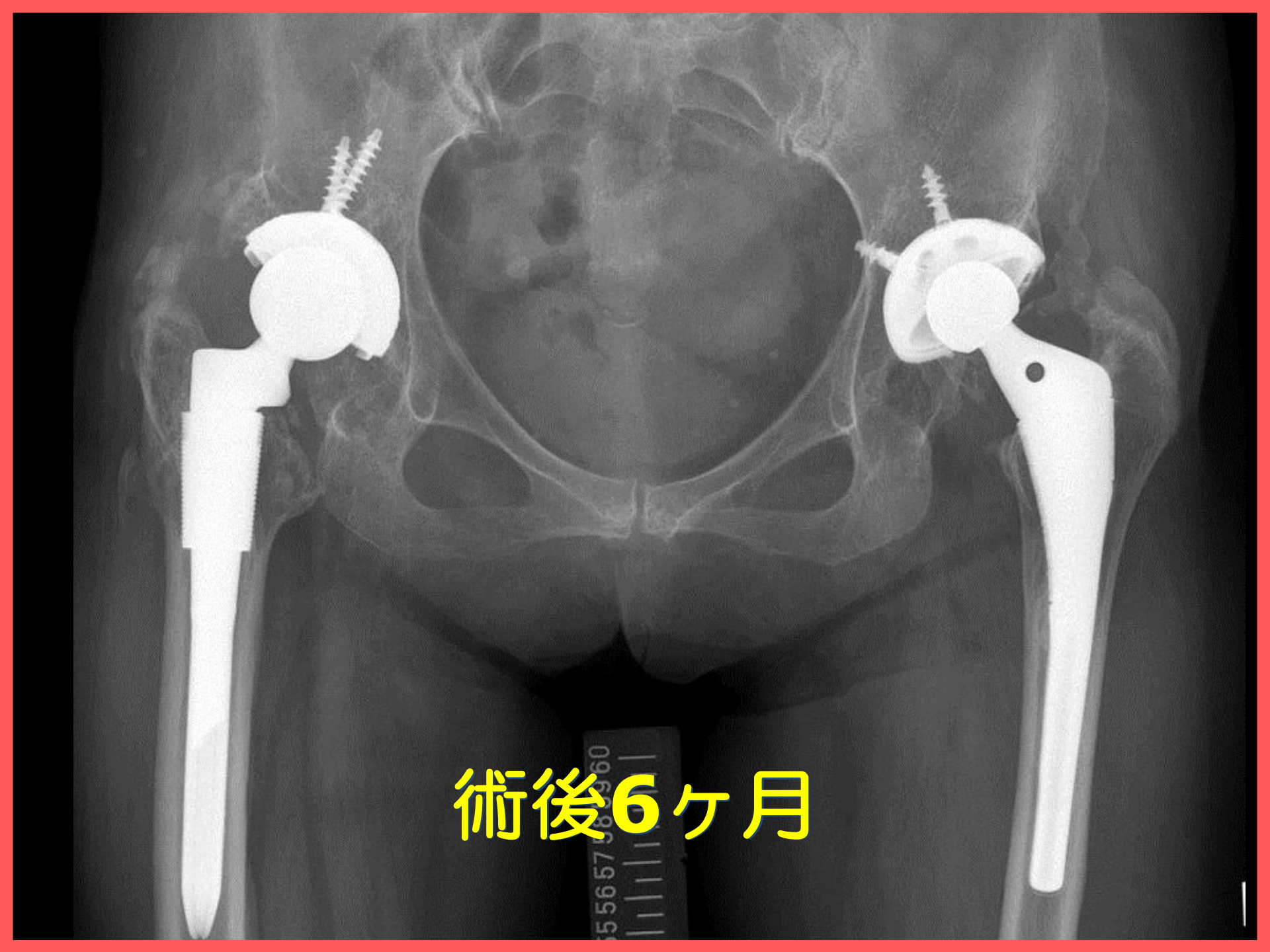




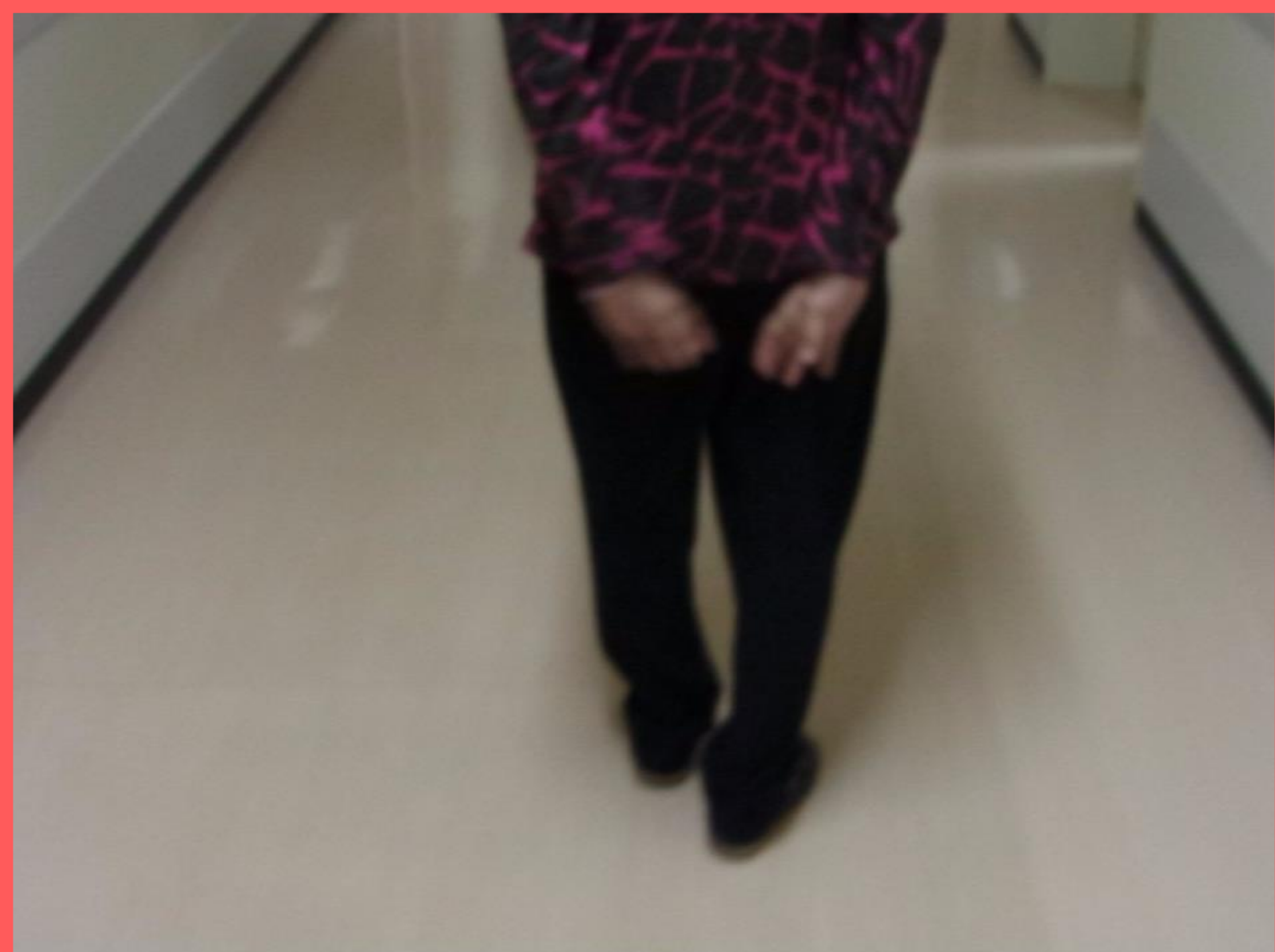
65 Y.O. female



39歳 : Lt-hip desis



術後6ヶ月



考察



THA conversion後の機能

■ 外転筋力の回復

Joshi AB, JBJS-Am, 2002

Jain S, J Arthroplasty, 2013

✓約**2年**を要する

✓術後しばらくは**杖が必要**！

➤ 今回の経験

術中の外転筋の状態が不良だった例は
2年経過しても杖が必要・・・

術後の歩行能力の回復に影響を与えている可能性がある！



THA conversion後の満足度

■ 満足度：63～100%

➤ 満足度低下の原因

- 膝関節痛・腰背部痛の残存
- 跛行の残存
- 杖の使用

Jain S, J Arthroplasty, 2013

➤ 今回の経験

術前に杖が不要だった例が術後に杖を要するようになると満足度低い！

杖の使用を理解してもらう必要がある





まとめ

- 股関節固定術後状態から**THAへconversion**した**8例**の症例を提示した。
- 全例で可動域の大幅な改善が得られていた。
- 術中の外転筋の状態が、術後の歩行能力に影響を与えている可能性があり、患者の満足度にも関連していた。
- 術後は一旦杖が必要となることを患者に理解させる必要がある。



Thank You



KANAZAWA, JAPAN

金沢大学